水と私

アフリカ、中近東から派遣研修員が来ました

国際協力機構（ＪＩＣＡ）が進めるアフリカ、中近東諸国など乾燥国の水資源確保・開発・水質保全等に関して、室蘭工業大学で技術指導と政策指導を受けている8カ国（エジプト、ニジェール、チュニジア、ジンバブエ、インド、ウズベキスタン、中国、イラク）8名の派遣研修員が錦多峰浄水場、高丘浄水場を訪れました。

訪れた研修生は、化学者、技術者等で年齢は27歳から38歳の方々です。

浄水場職員の説明を通訳を通して熱心に聞き入り、特に高丘浄水場の緩速ろ過方式に関心を示し、自国の水環境下での緩速ろ過方式導入の可能性を探る多くの質問がありました。

また、苫小牧は「湿気がなく緑豊かなとても良い都市」、苫小牧の水は「清澄で安全な水」、「大変清潔で安全」、「水質が良くおいしい」との感想が述べられました。

国連の調査では、水をなかなか手に入れられず、不衛生な水しか飲めない人が世界に10億人もいることがわかりました。

水を飲めても、不衛生なためにコレラ菌等細菌が体内に入り、下痢になったりして1日に6千人の子供が死亡しています。

帰国後、このたびの研修で得た知識や情報が、それぞれの水道事業の発展に寄与できるよう願うとともに、これを機会に苫小牧との友好関係が築かれることを願います。

熱心に質問する研修生（高丘浄水場）

ジャイカ JICAって何？

ＪＩＣＡ（国際協力機構）とは、「よりよい明日を、世界の人々と」のスローガンの下に、開発途上国の人材開発や技術協力など、主に「人を通じた国際協力」を実施する、外務省所管の独立行政法人のことです。

主な事業に、海外で発生した地震等の大規模自然災害時に派遣する、国際緊急援助隊などの「専門家派遣事業」、又、青年海外協力隊などの「ボランティア派遣」、さらに、日本国内での「研修員受入れ」などがあります。

今回は、この研修員受入れ事業で浄水場を視察に訪れました。

読者だより

市内住吉町　米谷　安江　元　夫妻

平成十年に縁あって大阪より苫小牧に移り住むことになりました。

苫小牧に住んでみて、道内でも数少ない自然環境の優れた街であることに感動を覚えました。

それは暑い夏でもクーラーを使わなくてもよい生活、そして何よりも美味しい苫小牧の水道水です。

夏でも十秒程の放水で冷たくなる水、そして湧き水のごとき美味しい水、大阪に居たときには味わえなかったことです。

蛇口を開けば当然のように出てくる水道水、しかしこれもこの業務に携わる関係者の努力で維持されていることを六月の水源地などの見学会で知り、感謝の気持ちです。ありがとう。今後ともこの美味しい水を守ってください。